

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	HAYASHI™-CHECK Solution 電量滴定用 チェック液
製品コード	KF-02
整理番号	KF-02-5
供給者の会社名称	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	環境・品質保証部
電話番号	06-6910-7305
FAX番号	06-6910-7300
緊急連絡電話番号	06-6910-7305
URL	http://www.hpc-j.co.jp/

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分3 自然発火性液体 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分4 急性毒性(吸入:蒸気) 区分4 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分外 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分外 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(血液系 腎臓 中枢神経系) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用 気道刺激性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(血液系 精巣)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分外 水生環境有害性(長期間) 区分外 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H226 引火性液体及び蒸気
H312+H332 皮膚に接触したり、吸入すると有害
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H370 血液系、腎臓、中枢神経系の障害
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、精巣の障害

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)

注意書き
安全対策

- 容器を接地すること。アースをとること。(P240)
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。(P241)
 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
応急措置
 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)
 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
保管
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)
 施錠して保管すること。(P405)
廃棄
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質
 化学名又は一般名 2-メトキシエタノール

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
エチレングリコールモノメチルエーテル	99%以上	CH ₃ O(CH ₂) ₂ OH	2-405		109-86-4

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9) エチレングリコールモノメチルエーテル(法令指定番号:80)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) エチレングリコールモノメチルエーテル(法令指定番号:58)(99%)

4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を多量の水と石鹼で洗うこと。
 医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 直ちに多量の水を飲ませる。
 口をすすぐこと。
 医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤 粉末消火薬剤, 二酸化炭素, 耐アルコール泡消火薬剤, 乾燥砂

<p>使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p>	<p>高压棒状放水 火災時に刺激性もしくは有毒なフェームまたはガスを発生する。 極めて燃え易い: 熱、火花、火災で容易に発火する。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。</p>
<p>特有の消火方法</p>	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 容器内に水を入れてはいけない。 引火点が極めて低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。 移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。</p>
<p>消火を行う者の保護</p>	<p>着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。</p>

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具 及び緊急措置</p>	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外は近づけない。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。</p>
<p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>汚染された排水等が適切に処理されずに環境に排出しないように注意する。 砂又は不活性吸着剤を撒いて、できるだけ掃きとり密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移す。 回収跡は多量の水で洗い流す。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い 技術的対策</p>	<p>吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。 長時間または反復の暴露を避ける。 漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。 作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。 取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気のある場所で取り扱う。</p>
<p>安全取扱注意事項</p>	<p>使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 排気用の換気を行うこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼、皮膚、衣服との接触を避ける。</p>
<p>保管 安全な保管条件</p>	<p>施錠して保管すること。 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。 その他の消防法等の関連法規の定めるところに従い保管する。</p>

安全な容器包装材料

遮光した気密容器

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
エチレングリコールモノメチルエーテル	0.1ppm	0.1ppm(0.31mg/m ³)(皮)	TWA 0.1ppm, STEL - (Skin)

設備対策

取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具

有機ガス用防毒マスク、自給式呼吸器(火災時)

手の保護具

不浸透性保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态

液体

形状

液体

色

無色透明

臭い

芳香

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

-85℃

沸点、初留点及び沸騰範囲

125℃

引火点

39℃ (タグ密閉式)

蒸発速度

情報なし

燃焼又は爆発範囲

1.8%~14%

蒸気圧

0.83kPa (20℃)

蒸気密度

2.6(空気=1)

比重(密度)

0.96g/cm³ (20℃)

溶解度

水に易溶。エタノール、ジエチルエーテルに可溶。

n-オクタノール/水分分配係数

-0.503

自然発火温度

285℃

動粘性率

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

通常の実験条件においては安定である。

危険有害反応可能性

強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

高温、火花、裸火、強酸化剤、強アルカリ、銅、アルミニウムとの接触

混触危険物質

強酸化剤、強アルカリ

危険有害な分解生成物

データなし。

11. 有害性情報

急性毒性:経口

ラットのLD₅₀値として、2,370-5,490mg/kg の範囲内での10件の報告(PATY (6th, 2012)、CICAD 67(2010)、産衛学会許容濃度の提案理由書(2009)、NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2006)、環境省リスク評価第4巻(2005)、ECETOC TR95(2005)、DFGOT vol. 6(1994)、EHC 115 (1990))に基づき、区分外とした。

急性毒性:経皮

ウサギのLD₅₀値として、1,280-3,920mg/kg の範囲内で11件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ(7件)(1,280mg/kg(環境省リスク評価第4巻(2005))、1,290mg/kg(PATY(6th, 2012))、1,300mg/kg(ECETOC TR95(2005)、EHC 115(1990))、1,300mg/kg(EHC 115(1990))、

	2,000mg/kg(環境省リスク評価第4巻(2005))、2,000mg/kg(PATTY(6th, 2012))、2,000mg/kg(DFGOT vol. 6(1994))が該当する区分4とした。なお、1件が区分5に該当し、3件は複数データの集約であるため該当数に含めずに分類した。
急性毒性:吸入(ガス)	GHSの定義における液体である。
急性毒性:吸入(蒸気)	ラットのLC ₅₀ 値(4時間)として、16,000mg/m ³ (=5,136ppm)(CICAD 67(2010))との報告に基づき、区分4とした。なお、LC ₅₀ 値が飽和蒸気圧濃度(8,193 ppm)の90%より低いため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。現行分類の7時間データに代えて、新たな情報源(CICAD 67(2010))の4時間試験データを優先して分類を見直した。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた一次刺激性試験が複数あり、本物質原液0.5mLを4時間適用した試験(EECガイドライン準拠)で、刺激性なし(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005)、BUA 198(1996))との報告や、本物質483mgを24時間適用した試験において軽度の刺激性ありとの報告がある(IUCLID(2000))。以上の結果より、区分外(国連分類基準の区分3)とした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405)において、本物質原液0.1mLを適用した結果、適用後24-72時間の刺激性の平均スコアが結膜発赤1.3-1.1、結膜浮腫0.5-0.2、角膜混濁0.2-0.0を示し、刺激性なしとの報告がある(BUA 198(1996))。また、別のウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の原液0.5mLの適用により刺激性はみられなかった(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005))との報告がある。以上の結果から、区分外とした。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験の結果、感作性はみられなかった(CICAD 67(2010))との報告はあるが、試験条件及び試験結果を含め詳細不明のため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、ラット及びマウスの優性致死試験、染色体異常試験、マウスの小核試験、ヒト末梢血及びマウス骨髓細胞の姉妹染色分体交換試験で弱い陽性結果も混じることが概ね陰性の結果である(NITE初期リスク評価書(2007)、産衛学会許容濃度の提案理由書(2009)、CEPA(2002)、ECETOC TR95(2005)、CICAD 67(2010)、DFGOT vol. 6(1994)、PATTY(6th, 2012))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陰性、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験、ヒト線維芽細胞の不定期DNA合成試験で、1例の染色体異常陽性結果を除きすべて陰性である(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第4巻(2005)、産衛学会許容濃度の提案理由書(2009)、CEPA(2002)、ECETOC TR95(2005)、CICAD 67(2010)、DFGOT vol. 6(1994)、PATTY(6th, 2012))。
生殖毒性	ラット、マウスを用いた経口経路(飲水)での多世代生殖毒性試験において約20-200mg/kg bw/day相当で生存産児数の減少、受胎率の低下、妊娠回数減少等がみられた(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005))。経口経路での催奇形性試験では、マウスにおいて母動物毒性がみられないか、体重増加抑制がみられる用量(60-300mg/kg/day)において胎児死亡、前後肢の指の奇形(合指、短指、欠指、多指)、骨格奇形(頸椎弓の分岐・分離)、外表奇形(外脳)の発生率の増加、ラットでは、母動物毒性がみられない用量(31mg/kg/day相当)で心血管系の奇形、アカゲザルでは、12mg/kg/day以上で胎児の死亡、36mg/kg/dayでは胎児の全例が死亡し、死亡胎児の1例で両前肢に指の欠損が報告されている(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005))。吸入経路の催奇形性試験では、母動物に体重増加抑制がみられる濃度(50ppm)でマウスでは胎児に精巣低形成、骨格変異、ラットでは骨格変異、ウサギでは吸収胚の増加、胎児体重低値、外表奇形(関節拘縮、内反足、無爪、短指、欠指、臍ヘルニア等)、骨格奇形(指骨欠損)、内臓奇形(心室中隔欠損、鎖骨下動脈形成不全、無腎、腎奇形、腎盂拡張、横隔膜ヘルニア、卵巣欠損、膀胱低形成等)が報告されている(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005))。経皮経路の催奇形性試験では、ラットにおいて母動物に体重増加抑制がみられる用量(500mg/kg)で外表奇形(前肢屈曲)、内臓異常(腎盂拡大、尿管拡張)が報告されている(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005))。以上のように、実験動物に対して明らかな生殖影響がみられており、また、産業衛生学会許容濃度等の勧告(2013)で、生殖毒性第1群物質(ヒトに対して生殖毒性を示すことが知られている物質)にリストアップされている

る(2013年提案暫定)。産業衛生学会許容濃度の提案理由書(2009)には、ヒトでの生殖影響に関して「ラジオ・テレビ用のコンデンサー製造事業所において1970-1977年の間EGMEに平均4.6年間ばく露されていた女性労働者28人について追跡調査が行われた。28人から41人の子供が生まれた。妊娠中にばく露されていなかった子供を対照とした。その結果、ばく露群では先天異常及び染色体異常の頻度が有意に高かったとしているが、過去及び調査時点でのばく露レベルが不明であることと、本物質は遺伝毒性が陰性であり、観察された染色体構造異常頻度上昇には他の物質との混合ばく露の影響も考えられることから慎重な解釈が必要と思われる」と記載されている。以上のように、実験動物に対して明らかな生殖影響がみられているが、ヒトへの影響は不明瞭である。従って、区分1Bとした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ヒトにおいては、気道に軽度の刺激性を有する。吸入経路で、咳、咽頭痛、めまい、頭痛、吐気、嘔吐、錯乱を生じ、高濃度の場合には意識喪失の場合がある。経口経路では、事例報告より、急性影響として死亡、悪心、チアノーゼ、呼吸亢進、頻脈、代謝性アシドーシス、錯乱、激昂などの中枢神経症状、急性出血性胃炎、急性膵炎、腎臓の黒色化及び尿細管の変性、脳と髄膜にうっ血水腫(NITE初期リスク評価書(2007))、肝臓の脂肪変性、腎臓の黒色化及び尿細管の変性、脳及び髄膜の水腫、うっ血、代謝性アシドーシス、肺の障害(環境省リスク評価第4巻(2005)、CICAD 67(2010))の報告がある。さらに、CICAD 67(2010)で、ヒト疫学的データから神経系への影響が示唆されるほか、血液系への影響があると明確な関連性が記載されている。実験動物では、ラットなどで経口、吸入、経皮経路において、血液学的影響(CICAD 67(2010))、マウスの吸入で肺、腎臓の障害(産衛学会許容濃度の提案理由書(2009)、ACGIH(7th, 2006))、経口で肺の浮腫、肝臓の軽度の傷害、腎臓の重度の傷害、ヘモグロビン尿(PATY(6th, 2012))、ラット、マウスの395 mg/m³以上の吸入で、回避・逃避条件反応の抑制、バルビツール酸塩誘発性睡眠時間の延長、四肢の部分的麻痺といった神経毒性試験の報告(CICAD 67(2010))がある。これらの所見は、区分1に相当するガイド値の範囲でみられた。なお、肝臓、肺の所見については、本物質の二次的影響とした。

以上より、区分1(中枢神経系、血液系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ヒトの職業ばく露による疫学研究において、本物質にばく露された男性作業者の群では非ばく露対照群と比べて、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値が有意に低下し、貧血の発症率は対照群の3.2%に比し、ばく露群では26.1%と増加していた。ばく露群において明確な血液毒性所見がみられた時点、その後、職場環境の改善を行った2.5ヵ月後及び6ヵ月後に作業場で測定した本物質気中濃度とばく露群における尿中代謝物(メキシン酢酸: MAA)濃度を追跡測定した結果、両者は高い相関性を示し、本物質ばく露と血液毒性発症とは関連性があると考えられた(CICAD 67(2010))。この他、疫学研究報告には精子形成阻害がみられたとの報告がある(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005)、CICAD 67(2010))。実験動物では、ラットに13週間飲水投与した試験において、区分2に該当する用量(70 mg/kg/day)で胸腺及び精巣の萎縮がみられ、マウスの13週間飲水投与試験でも区分外の高用量で精巣に重量減少及び組織変化がみられている(NITE初期リスク評価書(2007)、CICAD 67(2010))。また、ラット又はウサギに本物質蒸気を13週間吸入ばく露した試験においても、区分2相当の濃度(0.31-0.93 mg/L)で、白血球数、ヘモグロビン濃度及びヘマトクリット値の減少、並びに精巣萎縮がみられている(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005)、CICAD 67(2010))。以上より、ヒト及び実験動物での知見に基づき、区分1(血液系、精巣)とした。

なお、旧分類で採用された中枢神経系への影響(神経症状、脳症など)に関するヒトでの複数の知見はいずれも他物質との複合ばく露による急性又は反復ばく露影響であることを確認した(NITE初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95(2005)、CICAD 67(2010))ため、現行分類では標的臓器から削除した。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

魚類(メダカ)の96時間LC₅₀ > 88.9mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007)、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC₅₀ > 84.8mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007)、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間ErC₅₀ ≥ 93.2mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007)であることから、区分外とした。

水生環境有害性(長期間)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性(2週間でのBODによる分解度:73、82、94%)(既存点検, 1988))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC > 84.8mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007)、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間NOECr \geq 93.2(NITE初期リスク評価書, 2007)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(メダカ)による96時間LC ₅₀ > 88.9mg/L(NITE初期リスク評価書, 2007)であり、難水溶性ではない(水溶解度=1000000mg/L、PHYSPROP Database, 2009)ことから、区分外となる。以上の結果より、区分外とした。
オゾン層への有害性	データなし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	1188
Proper Shipping Name	ETHYLENE GLYCOL MONOMETHYL ETHER
Class	3
Packing Group	III
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II, and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	1188
Proper Shipping Name	ETHYLENE GLYCOL MONOMETHYL ETHER
Class	3
Packing Group	III
国内規制	
陸上規制	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1188
品名	エチレングリコールモノメチルエーテル
国連分類	3
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1188
品名	エチレングリコールモノメチルエーテル
国連分類	3
等級	III
特別の安全対策	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。
緊急時応急措置指針番号	127

15. 適用法令

化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
労働安全衛生法	第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)
消防法	第4類 第二石油類(水溶性)
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二)
道路法	車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

16. その他の情報

参考文献	国際化学物質安全性カード(ICSC) 16716の化学商品(化学工業日報社) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH
その他	当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。 現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。 当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。 当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。 国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。 このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。 当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。